

事業評価調書〔途中評価〕（令和元年度）

1. 施設の名称等

施設名称	長崎県立佐世保青少年の天地	事業所管	教育庁	生涯学習課
所在地	佐世保市烏帽子町376	課(室)長名	山口 千樹	
総合計画上の位置づけ	基本戦略	5	次代を担う子どもを育む	
	施策	(4)	我が国と郷土を愛する心や豊かな人間性、社会性の育成	
	事業群	④	子どもたちが直接自然と触れ合う体験活動や農山漁村での交流体験の推進	

2. 施設の概要

設置年月日	昭和44年7月1日			
設置法令等	長崎県立佐世保青少年の天地条例（昭和44年3月22日）			
設置目的	青少年を大自然に親しませ、その健全な育成を図るため集団宿泊研修施設及び野外活動施設として設置する。			
利用対象者等	利用対象者：特に制限なし 開業時間：午前9時～午後5時（ただし宿泊者があれば、この限りではない） 休業日：12月28日～1月5日（年末年始休業日）			
施設内容	敷地面積：330,008㎡、建物面積：11,948㎡ 主な施設：本館、ロッジ、ケビン、多目的ホール（体育館）、キャンプ場、運動場、野鳥・昆虫の森、アスレチック 宿泊定員：526名			
施設の利用料金体系	◎利用料金表			
	区 分	単 位	金額(円)	
宿 泊 棟 ケ ビ ン ロ ッ ジ	小中学生	1 人 1 泊	100	
	青 年		510	
	営利団体(小中)		510	
	営利団体(その他)		1,540	
上記以外の者	1,130			
テ ン ト	小中学生		50	
	青 年		210	
	営利団体(小中)		210	
	営利団体(その他)		510	
多目的ホール	アリーナ		全面1時間	1,030
		半面1時間	510	
	アリーナ冷暖房費	1時間	3,390	
	視聴覚室	1時間	210	
	視聴覚室冷暖房費	1時間	210	
	音楽活動室	1時間	210	
テニスコート	音楽活動室冷暖房費	1時間	210	
	青年以下(25歳未満)	1面1時間	210	
プレイグラウンド	上記以外の者	1面1時間	310	
		全面1時間	1,030	
研 修 室		半面1時間	510	
	大研修室	1室1時間	410	
	中・小研修室	1室1時間	210	
	研修室冷暖房費	1室1時間	210	
◎減免規定（県立青少年教育施設共通）				
区 分			減免額	
1 県又は県教育委員会（県立青少年教育施設）が主催・共催による事業等を無料で開催するとき			全額	
2 幼稚園・小学校・中学校・高等学校が学校行事として行なう宿泊研修等で利用するとき			全額	
3 障害者（身体障害者・知的障害者）及び介護者が、青少年教育施設（宿泊型）を利用するとき			全額	
4 各指定管理者が公益上その他特別の理由があると認めるとき			全額又は5割	
類似施設の設置状況	施設名称	長崎県 佐世保青少年の天地	佐賀県 波戸岬少年自然の家	宮崎県 青島青少年自然の家
	設置年度	S44	H11	S50
	定員	526人	300人	304人
	H30利用者数(人)	63,110	71,560	68,156
	指定管理者制度 導入時期	平成18年4月1日	平成18年4月1日	平成18年4月1日
	H30県負担金額 単位：千円	86,872	99,968	116,229

区 分 (単位：千円)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (計画)
	財 源				
国 庫					
その他(使用料)	45	42	52	242	42
一般財源	102,310	86,904	95,633	87,302	88,470
事業費<A>	102,355	86,946	95,685	87,544	88,512
内 訳					
管理運営負担金	101,384	86,620	86,755	87,514	88,266
その他(備品購入費・改修費)	951	326	8,930	30	822
人件費					
合計<C=A+B>	102,355	86,946	95,685	87,544	88,512
単位あたりコスト	1.4	1.3	1.5	1.0	

(説明) 「当事業による一人あたりの施設利用費用」= C ÷ (当事業によるH30施設利用人員：63,110人)

3. 指定管理者の概要

指定管理者の名称等	<<所在地>> 佐世保市烏帽子町376 <<名称>> 特定非営利活動法人 長崎県青少年体験活動推進協会 <<代表者氏名>> 理事長 鶴崎 耕一		
指定期間	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日		
業 務	施設(設備)の維持・修繕等(ただし150万円以上の改修を除く) 利用団体の指導に関する業務、主催事業・施設事業に係る広報・PR活動、教育機関としての連携業務		
利用料金制	■ 導入済	未導入	選定方法
			■ 公募
			非公募

4. 成果指標の達成状況及び管理運営に要した経費等の収支状況

成果指標の達成状況	実 績		平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (計画)
	単位						
① アンケート調査による利用者満足度(%)	a 目標値		90	90	90	90	90
	b 実績値		99	98	98	99	
	c 達成率b/a	%	110	108	108	110	
② 年間利用者数(人)	a 目標値		75,500	73,700	71,100	68,700	66,000
	b 実績値		72,367	67,615	65,207	63,110	
	c 達成率b/a	%	95	91	91	91	
③ 主催事業参加率(%)	a 目標値		100	100	100	100	100
	b 実績値		110	111	120	143	
	c 達成率b/a	%	110	111	120	143	

(目標値の根拠) <元年度実施における変更点>
 ①利用者の大半が満足していると判断できる90%を毎年度維持
 ②過去5カ年の平均と前年度実績から算定
 ③定員の充足
 ※いずれの目標値も指定管理者と協議のうえ設定
 ②年間利用者数目標値を変更 68,700人→66,000人

指定管理者の収支状況	事業計画(H30)		平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (実績)	令和元年度 (計画)	
	(千円)	実績-計画						
収 入	利用料金	11,117	-501	11,078	12,339	11,431	10,616	10,472
	県負担金	87,272	-400	101,384	86,620	86,755	86,872	88,266
	その他		0					
	計a	98,389	-901	112,462	98,959	98,186	97,488	98,738
支 出	b	98,384	-5,156	105,174	91,570	94,278	93,228	98,738
	うち人件費	50,082	-775	52,957	48,618	48,610	49,307	50,062
収支a-b	5	4,255	7,288	7,389	3,908	4,260	0	
配置職員数(人)	常勤	4	常勤	5	常勤	4	常勤	4
	非常勤	8	非常勤	7	非常勤	8	非常勤	8

※この収支は指定管理者が行う管理運営にかかるものであり、この他に県が直接負担したものとしては、「2 施設の概要」の「県予算」の「その他」がある。

5. 平成30年度事業の実施状況・実績の検証

計 画		実 績																																					
管理運営の状況	<p><指定管理者実施分></p> <p>①施設（設備）の維持修繕等 ②利用団体の指導に関する業務 ③主催事業に関する業務 ④施設事業に係る広報・PR活動 ⑤教育機関としての連携業務</p> <p><県実施分></p> <p>①業務の実施状況や管理経費等の収支状況調査を実施 ②県の広報媒体を活用した施設及び主催事業の周知</p>	<p><指定管理者実施分></p> <p>①協定書に基づき適正に実施された。 ②入所時の安全指導、滞在中の巡回等が適切に行われた。 ③事業計画書に基づいた積極的な事業展開が行われた。また、事業内容の見直しも随時検討し、次年度以降の計画に活かされた。 ④募集要項、チラシ等を近隣幼保(園)、小・中学校、高等学校へ配布。特に市内小・中学校長会には直接出向いて、事業説明や施設のPRを行い積極的利用を依頼した。また、ホームページでの事業案内に加え、近隣市町教委、学校を訪問し説明を行った。 ⑤小中学校、高校の宿泊学習や部活動の合宿。市教育委員会とは少年科学館、青少年教育センターとの事業連携を図った。</p> <p><県実施分></p> <p>①適正に実施されていることを確認した。 ②生涯学習情報提供システムや県全世帯広報誌、民間企業を活用した広報活動を行った。</p>																																					
	検 証																																						
<p>○管理運営状況については、協定書に基づき適正に実施された。 ○利用者数については 63, 110人で、目標である68, 700人を概ね達成することができた。 ○主催事業については、定員に対する参加率は143%で目標を達成した。 ○施設利用者への満足度アンケートでは、99%が「良」という結果で目標を達成し、施設サービスについて高い評価を得ている。</p>																																							
収支計画・実績																																							
収支の状況	<p><指定管理者実施分></p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">主な項目</th> <th style="width: 10%;">計画</th> <th style="width: 10%;">実績</th> <th style="width: 60%;">増減理由・収支改善の取り組み等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入 a</td> <td>98,389</td> <td>97,488</td> <td></td> </tr> <tr> <td> うち利用料</td> <td>11,117</td> <td>10,616</td> <td></td> </tr> <tr> <td> うち県負担金</td> <td>87,272</td> <td>86,872</td> <td></td> </tr> <tr> <td>支出 b</td> <td>98,384</td> <td>93,228</td> <td>経費削減による支出減</td> </tr> <tr> <td> うち人件費</td> <td>50,082</td> <td>49,037</td> <td></td> </tr> <tr> <td> </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>収支 a-b</td> <td>5</td> <td>4,260</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			主な項目	計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等	収入 a	98,389	97,488		うち利用料	11,117	10,616		うち県負担金	87,272	86,872		支出 b	98,384	93,228	経費削減による支出減	うち人件費	50,082	49,037										収支 a-b	5	4,260	
	主な項目	計画	実績	増減理由・収支改善の取り組み等																																			
収入 a	98,389	97,488																																					
うち利用料	11,117	10,616																																					
うち県負担金	87,272	86,872																																					
支出 b	98,384	93,228	経費削減による支出減																																				
うち人件費	50,082	49,037																																					
収支 a-b	5	4,260																																					
検 証																																							
<p>○主催事業の参加者及び施設利用者を確保することで、利用者収入を一定得ることができた。 ○収支ともに実績減となったが、収入確保と経費削減などの経営努力により収益を得ることができた。</p>																																							
指定管理者制度の導入効果を踏まえた施設の設置目的の達成状況の総合評価			A																																				
<p>(説明)</p> <p>○利用者数については目標を達成できなかったものの、91%の達成率であり、また前年度比減については、台風接近に伴う天体観望事業の中止等に伴うものと考えられるため、概ね目標を達成していると考えられる。 ○施設運営については、協定どおりに年末年始のみの休館としているが、利用者の要望に応じ、入所時間を変更するなど利用者優先の運営が行われており、利用者の満足度も良好である。 ○主催事業については、市内の小中学校と連携し、「集団での自尊感情と被受容感の大切さ」をテーマにチャレンジスクールを実施し、サバイバル体験やオリエンテーションを通して、子どもたちの人間関係形成力を高めることができた。さらに、学校のカリキュラムと連携し、授業時数としてカウントできるようにしたことで、教室の中だけでは実施しにくい体験や自然体験、生活体験を当施設で行うことにより、更なる利活用の促進に繋げることができた。 ○収支面においては、広報・PR活動を継続的に実施したことにより利用者が確保されたこと、また、細かな予算管理と徹底した経費節減が行われたことによって収益を上げることができた。</p> <p>以上のことから、青少年を中心とした多くの県民に、自然体験活動及び社会教育活動の場を提供することができ、設置目的に則した成果を維持していると思われる。</p>																																							

6. 令和元年度事業の実施にあたり見直した内容

内 容
<p>○利用者数の目標値未達成が4か年続いていることから、利用者数の増加と今後より一層の増収の取組として、企業協賛を得たスポーツ大会をより充実させる。具体的には、「天地フットサル大会」を2部制（U-12/U-10）として、児童が年齢に応じて参加できるような企画とした。</p> <p>○ESD（持続可能な開発のための教育）の視点から「アドベンチャースクール」の見直しを行い、体系的な環境学習への改編を行った。</p>

7. 令和元年度事業の評価

指定管理者の行う管理運営等に関する評価	視点	評価	判定理由	
	・施設の設置目的にあった管理運営が行われているか。	a	全体の利用者に対し、青少年の利用率が66%、また宿泊の利用率が63%であり、設置目的を概ね果たしている。	
	・住民の公平かつ平等な利用の確保が行われているか。	a	目的に則した利用料金設定と減免基準を設けており、住民の公平かつ平等な利用を確保している。	
	・利用者に質の高いサービスの提供が行われているか。	a	利用者アンケートを実施し、利用者ニーズを取り入れたサービスの提供に努めている。また、アンケート結果も満足度が非常に高い。	
	・施設・設備の維持管理は適切に行われているか。	a	施設・設備の日常点検・定期点検は協定書に従って適切な管理が行われている。	
	・収入の確保に向けた取り組みが行われているか。	a	利用者確保により収入の確保について努めている。	
	・経費節減に向けた取り組みが行われているか。	a	経費削減により収益を上げている。また、定期的に予算執行状況を把握し、適切な予算執行に努めている。	
（その他の観点） ※評価区分（a：行われている b：一部行われていない c：行われていない）				
施設の在り方についての評価	視点	評価	理由	
	・県民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 薄れていない b. 一部薄れている c. 薄れている 	平成30年度の年間の利用者は、約6万3千人で目標値は下回ったものの、学校等の宿泊学習が盛んに行われている。また、一般の利用者に対し自然体験活動の重要性を認識させており、必要性は高いと思われる。	
	・事業を取りまく環境、経済情勢などの変化に適切しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 適応している b. 一部適応していない c. 適応していない 	少子化により、主な利用者である児童生徒が減少する中、ウォーキングや薬草採集等幅広い年齢層に対応した事業等の展開により利用者数を確保している。	
	・市町または民間に移管・移譲することが適当（可能）ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 適当（可能）でない b. 一部適当（可能）でない c. 適当（可能）である 	大型施設であり、県北地域の拠点施設としての役割も大きいいため、県で維持していくべきである。	
	・県の負担や業務量に見合った活動結果が得られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 得られている b. 一部得られている c. 得られていない 	協定に定められた施設の維持管理、指導業務、主催事業等を実施し、計画どおりの活動結果が得られている。	
	・指定管理者制度以外で、同一の県負担や業務量でより大きな活動結果が得られる手法に代えられないか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 代えられない b. 一部代えられない c. 代えられる 	社会環境に応じた柔軟性のある主催事業の展開、経費節減の実効性など指定管理者制度が有効に機能している。	
	・指定管理者制度は、施設の設置目的の達成に十分寄与する手法となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. なっている b. 一部なっていない c. なっていない 	収支状況も概ね安定し、良好な施設運営、サービスの提供により、利用者の満足度も高い。	
	・事業効果をさらに上げる余地はないか。	<ul style="list-style-type: none"> ■ a. 余地はない b. 一部余地がある c. 余地がある 	大学と民間等との事業連携を図ることで、収入確保・利用促進の両面から改善が可能であると思われる。	
	（その他の観点）			

8. 令和2年度事業の実施に向けた方向性

区 分	現状維持	■ 改善	移管	廃止
<p>(説明：2年度事業の実施に向けた方向性の理由・見直しの内容)</p> <ul style="list-style-type: none">○いじめ、学級崩壊等、社会的問題にもなっている様々な課題を踏まえ、QUテスト(※)を用いて体験活動の有効性を明らかにし、発信することで利用者の獲得に結び付ける。また、新たな協力校と連携し、学校の課題やニーズに合わせた「課題解決型のオーダーメイドプログラム」をチャレンジスクールに取り入れ、効果や課題を検証する。○各種スポーツ団体の誘致を拡大し、競技会場として定着させることで、安定した利用者の増加を図る。○新たな取組として、ネット依存や不登校に係る支援キャンププログラム等の開発研究を行う。○行政機関や民間団体等と連携し、体験プログラムの充実を図る。○民間企業における利用促進のために法人会（公益社団法人佐世保法人会）を通じた積極的案内を行う。 <p>※QUテスト：学級集団を学級満足度尺度や学校生活意欲尺度等、客観的なデータで分析するシステム</p>				